



多様性を持つ豊かな生き方



# パラレルキャリア

人脈が広がる！



副業



本業



NPO

本業がぐっと  
面白くなる！



ボランティア

多様な物事の  
見方が養える！

日時

平成 29 年

7 月 1

日(土) 9 時 50 分～12 時 30 分

場所

習志野市庁舎 グランドフロア大会議室

来場者数：88 人

主催

習志野市男女共同参画週間事業運営委員会・習志野市

# 目次

1. シンポジウム内容…………… 1～7ページ

①講演会

私のパラレルキャリア～イノベーション時代を乗り切るために～

②パネルディスカッション

働き方、生き方をもっと自分らしく～私たちのパラレルキャリアのスタイル～

2. アンケート集計結果概要…………… 8～13ページ

3. 反省点・改善点…………… 14ページ

## 1. シンポジウム内容

### ① 講演会(午前 10 時～11 時)

私のパラレルキャリア～イノベーション時代を乗り切るために～

講師 三谷宏治さん K.I.T.虎ノ門大学院教授・放課後 NPO アフタースクール理事 他



「知っている」ことは大切であるが、「知っている」と「考えること」をやめてしまう。子どもはどんどん動くのに、成長すると動かず悩み続けることが「考えること」と刷り込まれる。日本人は座って悩むのが好き。悩みは進んでいない時に発生する感情。座って悩まずに動いて考える。

「発想」は「発散」と「収束」ではなく発見をすること。たくさんある中で、一番面白そうなものに絞り探究する。そして行き詰ったら次のものをつくる。「常識」が発見を阻害する。「恐怖」が選択を阻害する。「満足」が探究を阻害する。「なぜ？」を何回も繰り返し考えることが大切。

「イノベーション」とは、社会が大きく変わる事。例えば「安い」と「美味しい」は両立しない。この両立しないことを両立させる試みが「イノベーション」。ただし「イノベーション」を狙うと成功確率は下がる。成功するためには試行錯誤をし、その前提にあるのが多様性のあるチームである。新しいものを生み出すためには多様性が必要である。

アイデアも解決策も遠く離れたところからくる。だから探しに行く。趣味を極めれば仕事に返ってくる。自分の中に多様性を持つ。そのためのパラレルキャリアである。

自分は今、様々なことを同時に行っている。各々の経験が互いに生きて全て繋がっている。パラレルキャリアのスタート地点がこれまでにいくつかあった。社内研修がなく研修を立ち上げ、友人・同僚の依頼でビジネス研修を開始、上司の命令で文筆開始、校長の呼びかけで学校での講演など。

「きっかけ」をとりあえず受け入れる。「受動的」に呼びかけられたら「やってみる」。パラレルキャリアは幅が広がる、組み合わせで価値が出る、変化に強くなる。いろいろなことをやっていたから成功した。一方で、リスクは浅く中途半端になること。

自分がいろいろなことが可能だったのは、もともと学ぶことが好き、新しい物が好きであったため。人に頼らず自分でやる。並列処理能力があること。同時並行で違うものをこなせる。そして多様な価値観を学んできた。

「自立心」…子どもの頃から「自分で決める」ことを促された。親に報告はするが相談はしない。親は子に「アドバイス」という名の答えを与えない。相談をすると親が答えを出してくれる。だから子どもは考えなくなる。

「発想力」…発想力を高めるには、他の人と違うことに慣れる。10人中1人になっても楽しいと思えることが発想。我が家では子どもに他の人と違うことに慣れさせるため、当時はランドセルの色といえば女の子は赤色という時代の中、赤色以外のランドセルを買い与えた。

シングルキャリアはそのことだけをやればいい。例えば3つの仕事を順番に行う。それは直列ではなく直前処理になりやすい。これに他のものを加えると大変である。締め切りより少し早めに取り掛かり、隙間で他のことをやる並列処理。私は全てのことを早めにやっているからこの並列処理が可能。直前処理はやる気はでも能力は出てない。

これからの時代、いざというときに動けないのが最大のリスクになる。今の時代の変化は激しい。いろんなキャリアを持っていることが最大のリスクヘッジになる。成果のアップにも繋がる。イノベーションの時代である。自分の中に多様性を持つ、又は多様な人と繋がれる経験をもつ。そんな力を持っていると有利。

10年前はパラレルキャリアを実践することは会社から詰問された。今は活動を維持・構築するコストやリスクが減った。

変化を楽しめる人材になってほしい、育ててほしい。これからも自分は知識ではなく、「考え方」、「やり方」を伝えていく。



② パネルディスカッション(午前 11 時 15 分～12 時 30 分)

働き方、生き方をもっと自分らしく ～私たちのパラレルキャリアのスタイル～

<コーディネーター>

小倉 一美 習志野市男女共同参画センター所長

<パネリスト>

三谷 宏治さん K.I.T.虎ノ門大学院教授・放課後 NPO アフタースクール理事 他

秋山 徹さん NPO 法人未来をつなぐ子ども資金理事長・品川区企画部参事(財政課長事務取扱)

石川 貴志さん 一般社団法人 Work Design Lab 代表理事・大手出版流通企業勤務他

古賀 陽子さん 習志野市民団体 Donna Popolo 代表・株式会社アイクリエイト勤務



**小倉:** 習志野市第2次男女共同参画基本計画(改訂版)で働き方の改革とワーク・ライフ・バランスの推進を重点施策に位置付け、成果目標までの道筋を表したロジックモデルを作り、関係者と共にワーク・ライフ・バランスの実現に向け取り組んでいる。

今回のシンポジウムの趣旨は、「パラレルキャリア」についての魅力を発信し、実践者を増やしていくことで、意欲的に働く多様な人材の発掘を図ろうというもの。今日は様々なパラレルキャリアのスタイルを紹介頂き、その可能性や広がりをお話いただく。

**秋山:** チャリティーウォークでお金を積み立て、子どもたちのために助成する。善意循環を作りたいために活動している。そもそもは小学校のおやじの会。道で同級生の親子と会うと、母と子は楽しそうだが、父親同士は気まずい。その輪に入りたかった。

NPOでもマネジメントが必要と感じる。結果、人の繋がりが見えてきた。活動が良くなると本業も良くなる。面白いものや楽しいものが前提にあって、結果、延長線上にパラレルキャリアの状態があった。平行線のようながハシゴのように繋がっている。それと家庭内マネジメントも大切。

**石川:** パラレルキャリアは目指した訳でなく、受動的に声をかけてもらったからこそなった。今も模索し葛藤しながらやっている。

本業の会社の名刺で区役所に行くと怪訝な顔をされるが、活動の名刺ではすんなり通る。名刺の威力はすごい。経済産業省の事例集に乗ったことで信頼が補強された。

高校の時に父の会社が倒産した経験もあり、自分を含めて一人ひとりがいきいき働くことが一番地域

を良くしそうと考えた。さらに 32 歳で子どもが生まれて社会性が増した。未来のことを考え始めた。

副業実践者と言われるが会社員兼CEOという働き方ができないかと考えている。また企業と繋がるには団体のネーミングも重要。広島県福山市にも協力していて、人口減少の中、町全体を副業の街にしていくことを提案している。副業のイメージを人材の流出ではなく、副業求人を立てて地域に取り込む新しいワークスタイルを築きたい。



**古賀:** 第 2 の活動から始まり後から本業を始めた。今の会社は週 2 回出社。場所等に縛られない人と働いている。課題解決能力のある人は、働き方、生き方も自由になる。先に始めた市民活動団体のコンセプトは「ママだけじゃない私になる」。妊娠出産で退職後、「正社員」しか人生にはないと考えていたが、地域でママ達が運営している市民活動団体に魅力を感じスタッフになった。その活動を通じて今の本業に繋がり、仕事の幅が広がっている。出会いが他の活動に生かせる。子育ての状況に合わせて仕事量を変えている。時間と気持ちの整理が大事。バッティングしないよう調整が課題。今の会社に雇用された理由を尋ねたら、色々なことにアンテナを張り、素早く動ける行動力のある人材を求められ採用したと言われた。少しずつ行動してきたことが繋がった。

**小倉:** 身近なことをきっかけに本業以外の事に繋がり、その出会いや取り組みが本業に生かされている。それがパラレルキャリアの活動。

次に休憩中に回収した第 1 部講演会の内容に対する質問について、三谷さんから回答を御説明頂きたい。

**三谷:** 会場からの質問。

①妻とパラレルキャリアの生き方は共有できているか？

⇒できていると思う。妻は元同僚で自分は新しいものにチャレンジするタイプであると妻は理解してくれている。価値観の共有は出来ている。ずれることもあるが子どもにはそれは見せない。後から二人で話をする。

②成長していくハードルが高いように思う。

⇒ハードルが高くてもできる。こうしたら上手くいくかもしれない、ということをお話で話した。5%の勇気。人生の 5%を何かに費やす。5%は 1 年で換算すると 18 日間。半日のイベントを 36 回もできる。

③学校教育で、子どもたちは悩んでいる。教育が自由に育むためにどのようにしたら良いか？

⇒親としては家で頑張る。教員は地道に教員研修をする。学び合いをもっと取り入れること。

- ④子どもに赤色以外のランドセルを買い与えたエピソードは、親の心情・価値観と子どもが実際に置かれている環境の激突だと思う。子どもに親の意図が伝わるのかは厳しいと思うが？

⇒親の意図が伝わるかは 3 人の子どもに対してしか経験はないが、伝わっていると思っている。子どもの力になる。長女は就活で内定した会社に、自分の目で確認するため 1 日研修の希望をメールし、自ら行動した。それを見て子育てが終わったと感じた。

強制しているかもしれないが、自分で調べて考え決める、子どもの決断が間違っていたとしても何も言わない。失敗したら痛い目に合えばそこからまた学べる。

- ⑤今日の講演会を聞いた成果として、「お母さんが何か変わったぞ！」と子どもに思わせる決め手の一言や態度を教えてほしい。

⇒子ども自身が、何が大事か考え、選択肢を調べ、説明をすることを促すような声かけをする。子どもがちゃんと調べたことに対して親は口を出さない。

我が家ではやりたい事、ほしい物があるときは調べて父に教えてくれと話している。長女には中学 2 年生の頃、高校進学について、自分で考えさせ「高校に行きたい」と申し出をさせた。



**小倉:** 仕事以外のパラレルキャリアを続けるため、時間、家庭についてどのようにしているのか。

**秋山:** 妻に活動が分かるよう、カレンダーに「チャリティーウォーク」と書いている。活動に子どもを連れて行ったりもする。時間は自分が作ろうと思っているかどうか。

**石川:** 妻と共働き。スケジュールはグーグルカレンダーで共有している。妻も一人の人間で、互いに主体性と関係性が必要。活動の際求められる人との関係性を、妻との関係で学んでいる。

**古賀:** 自分が育児中、夫から「子どもと僕のために時間を使って死ぬ時にあれをしたかったと言われたくない」、「社会と繋がっていない人と話したくない」、「子どもは勝手に育つ。自分の好きなことをしろ」と言われた。今、仕事で忙しく、家が散らかっても何も言わないけど、夫は理解してくれている。

**三谷:** 逆に切り捨てていることは飲み会とゴルフ。週末の家族サービスもない。子どもが自分達で遊び先を見つけてくる。普段から早く帰るので子どもとのコミュニケーションがとれている。

**小倉:** 夫婦のコミュニケーションは大事。

パラレルキャリアを始める前と後で考え方や変わったことはあるか。

**秋山:** 地域活動での会議は役所の会議と違い、いろんなことがあるがなんとかなっている。職場の会議は

楽だけど面白くない。地域活動で人との付き合い方を勉強できた。

**石川:** 周りからイネと言われた活動は続かない。自分が好きな事は続いている。いろいろやっていると、自分のことが理解できるようになった。時間は大切な資源で、活動に出てくる人はみんな同じ。本業での時間の使い方を反省し見直した。



**古賀:** 会社勤務をしていた頃は、パラレルキャリアを知らなかった。地域で活動すると色々な場・人と繋がった。大学生やいろいろな年代の人と出会うことができ繋がる。

**三谷:** 子どもの頃から苦手な事が人前で話すこと。大嫌いだった。コンサルのため毎日練習した。小学生授業で鍛えられた。コンサルとか肩書が通用しない相手に分かりやすく、を鍛える場であった。

**小倉:** 秋山さんは今後進みたい方向が見えてきているとあったが。

**秋山:** あと数年で定年。今の仕事と違うことをやりたい。ファンドレイジングを知った。チャリティーウォークを日本全国で始めたい。そのための支援活動など、定年後もやりたいことで必要とされるようになりたい。

**小倉:** 仕事だけよりも定年後、自分の場が作れるのもパラレルキャリアのメリット。

最後に習志野市でワーク・ライフ・バランス推進のために、パラレルキャリアの実践者を増やしていきたい。10月にも講座を行う予定。今後パラレルキャリア実践者がいきいきと働き、ネットワークを作るにはどうしたら良いか。





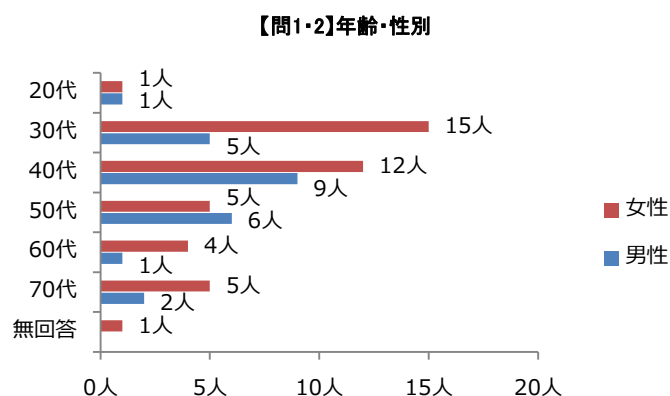
- 古賀:** 活動するうえで場所が使えるのが大きい。始める時の後押しがあると嬉しい。
- 石川:** パラレルワーカーを行政が進めることは心強い。役所も副業OKにするといい。市に地域研究所を作り、パラレルキャリアでやっている人を、パラレルワーカー研究イノベーションマネージャーみたいな名刺をつくり、巻き込んでいくと良いのでは。
- 秋山:** パラレルキャリアをやるのは市民なので、行政がやろうなんて思わないこと。そのうえで活動に必要なお金、人、場所などを支援することが必要。支援も今までと同じではなく、相手を想像し、試行錯誤しながらやるといい。
- 三谷:** 行政は担当者がすぐ変わる。結局は人。本気でやるなら異動しない専任をつける。企業はそうする。企業ではなく行政がやるとするなら、担当者が変わってもどう繋げていくか。ビジネスに任せるとか、中で抱え込まない。船頭が変わる船に乗っていいか不安になるのと一緒に。
- 小倉:** 皆さんの御意見を参考に組み組みたい。パラレルキャリアは些細なきっかけで繋がることできる。忙しくても、パラレルキャリアをすることで仕事の時間の使い方の意識が変わるかもしれない。実践することで本業を効率化し働き方を見直す近道をパラレルキャリアは秘めている。パラレルキャリアを始めることは早すぎる、遅すぎるはない。好きなことからパラレルキャリアのきっかけをつかみ、働き方を見直すきっかけとして頂きたい。



## 2. アンケート集計結果概要(アンケート回答者 67人)

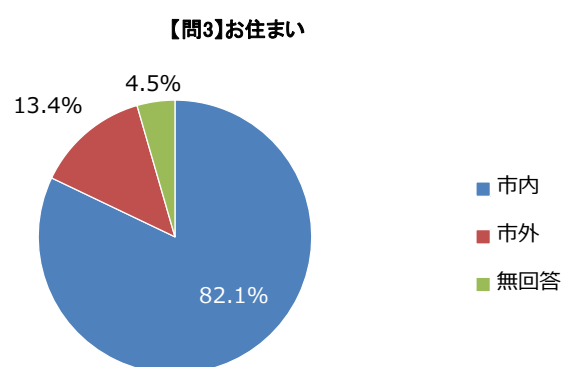
### 【問1-2】

- ・回答者 67 人のうち、男性は 24 人(36%)、女性 43 人(64%)であった。
- ・最も多いのは 40 代で 21 人(32%)、30 代で 20 人(30%)、50 代が 11 人(17%)であった。



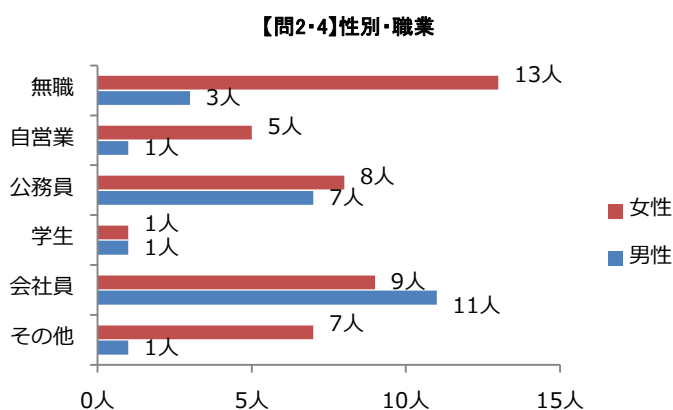
### 【問3】

- ・市内の参加者が 55 人(82.1%)であった。



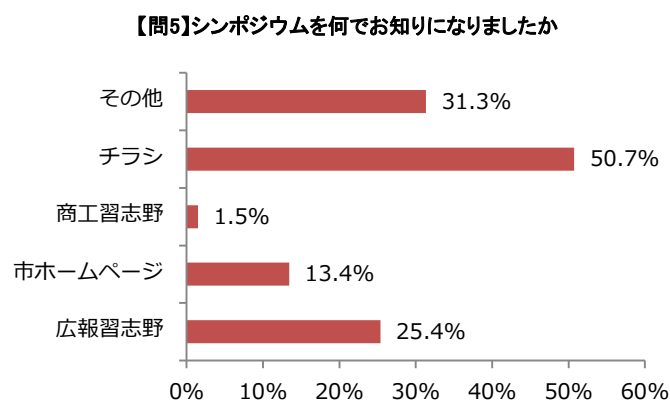
### 【問2-4】

- ・職業で最も多いのは会社員で 20 人(30%)、内訳は、男性 11 人、女性 9 人であった。
- ・今回の研修は、市職員に対する研修も兼ねていたことから、公務員が 15 人(23%)であった。
- ・育児中を含め無職の女性の参加は 13 人であった。



### 【問5】

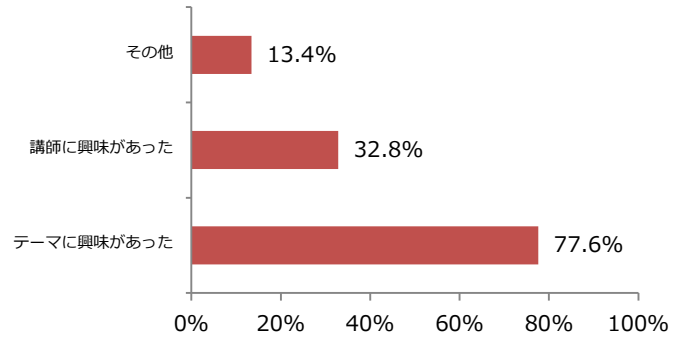
- ・シンポジウムの周知は、チラシ(50.7%)、広報習志野(25.4%)による周知が大きい。



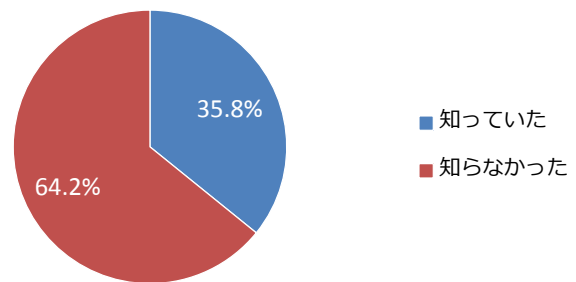
【問6・7】

・シンポジウムの参加理由は「テーマに興味があった」(77.6%)であるが、「パラレルキャリア」という言葉を知っていた人は 24 人(35.8%)であった。「パラレルキャリア」という言葉に関心を持ち参加したものと考えられる。

【問6】シンポジウムに参加した理由は何ですか



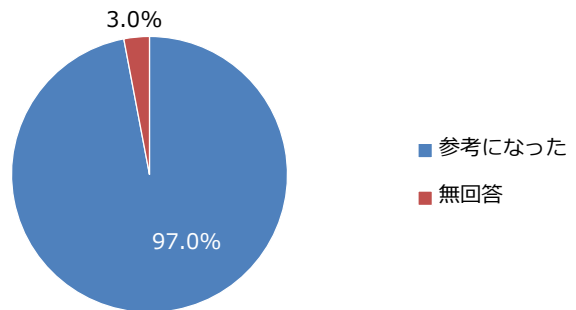
【問7】パラレルキャリアという言葉を知っていましたか



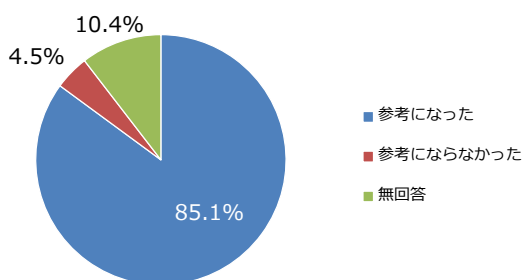
【問8・9・10】

・講演会の内容は「参考になった」65 人(97%)であった。  
 ・パネルディスカッションは「参考になった」57 人(85.1%)であった。  
 ・シンポジウム全体を通して、働き方・生き方を見直すきっかけに「大いになった」「なった」を合わせると 63 人(94%)であった。

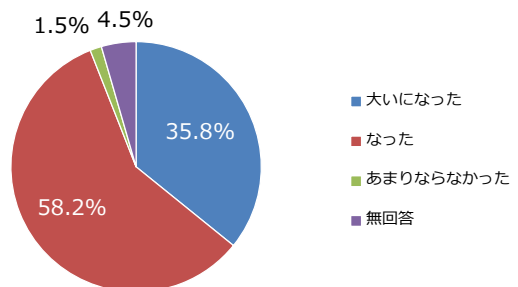
【問8】講演会の内容はいかがでしたか



【問9】パネルディスカッションはいかがでしたか



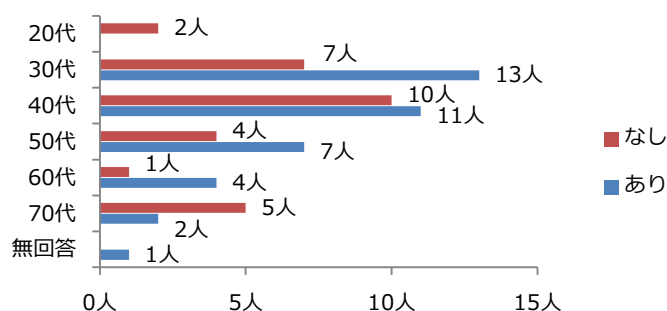
【問10】シンポジウムは働き方・生き方を見直すきっかけになりましたか



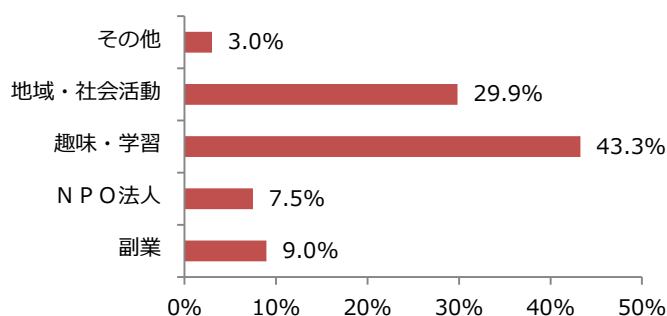
【問 11】

- ・本業以外の活動をしている者の割合は、30代で13人、次いで40代が11人と、比較的若い年代で本業以外の活動を始めている様子が伺える。
- ・本業以外の活動として、「趣味・学習」が29人(43.3%)、ついで「地域・社会活動」20人(29.9%)であり、自分の興味・関心のある分野からの取り組みや、身近な地域活動が取り組みやすいと考えられる。

【問11】年齢別・本業以外の活動の有無



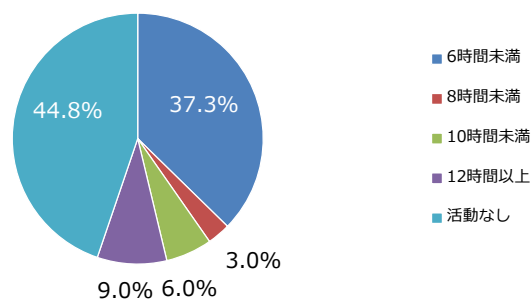
【問11】本業以外にどのような活動を行っていますか



【問 12】

- ・本業以外の活動時間は1週間あたり6時間未満が最も多く25人(37.3%)であった。本業以外の活動を行っている30代、40代は、育児や会社の中間管理職となる世代と重なるため、活動時間が短くなっていると思われる、隙間時間や時間を調整しながら活動していることが伺える。

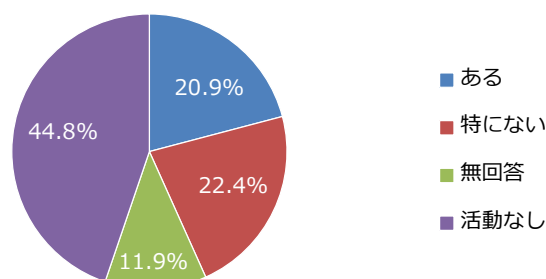
【問12】本業以外の活動では1週間あたりどれくらい時間を費やしていますか



【問 13】

- ・活動で困っている事があると回答した者は14人(20.9%)であり、その内容は、時間の確保や活動場所、実施方法などがあげられた。

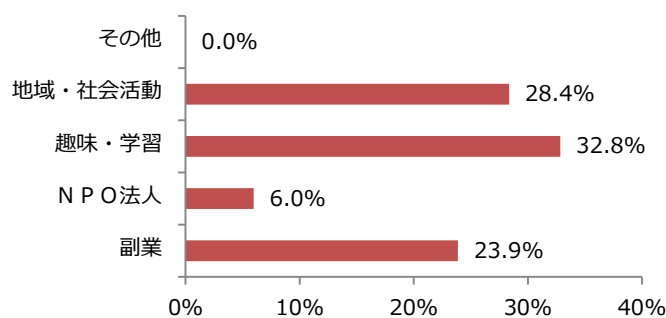
【問13】本業以外の活動をする上で困っていることの有無



### 【問 15】

- ・今後、実践したい活動は、「趣味・学習」(32.8%)が最も多く、次いで「地域・社会活動」(28.4%)であった。
- ・「副業」は、問 11 で実践している者は 6 人(9%)であったが、問 15 で実践したい者は 16 人(23.9%)に上る。
- ・一方、「NPO法人」は問 11 で実践している者は 5 人(7.5%)、問 15 で実践したい者は 4 人(6.0%)と、活動希望者は少数である。
- ・NPO法人ではなく、副業への希望が多い。

【問15】パラレルキャリアを実践するとしたら  
どのような活動をしたいですか



### アンケート自由記載欄

(働き方について感じること、シンポジウムの感想、今後取り上げてほしいテーマなど)

- ・三谷先生の連続講座を聞いてみたい。
- ・とても有意義な時間となりました。育児をしながら母親、妻以外での軸ってなんだろう？育児と仕事の両立って難しい。フルタイム正社員じゃない働き方って、仕事と母以外って、と毎日ぐるぐる考える中でのヒントになればと参加しました。結果大満足です。
- ・キャリアを無職(0)⇒フルタイム(100)にしていかなければと思いがちでしたが、小さなステップの積み重ねもありだという気付き、嬉しい発見でした。
- ・年を重ねること、いろいろなことに興味を持つことが悪いことでない、希望が持てることと思えてとても嬉しかったです。今日はステキな機会をありがとうございました。
- ・とても参考になりました。皆さんのお話もすごく面白かったです。
- ・パネリストの皆さんのお話もっと聞きたかったです。
- ・会場が少し蒸し暑かったです。
- ・充実したお話が聞けて良かったです。
- ・パネリストのバックグラウンドが異なり、ターゲットが曖昧。
- ・行政として何ができるが、もう少し深く議論してほしい。
- ・三谷さんの話は、非常に明確、ためになりました。是非第 2 弾企画ください。
- ・自分の生き方がパラレルキャリア(この言葉も知らなかった)なのですが、そういう生き方に自信がな

かったのですが、ちゃんと社会に認知されるような働き方だと分かり、とてもうれしく自信が持てました。

- ・とても視野が広がりました。ありがとうございました。
- ・私自身、公務員としてフルタイムで働きながら、年長の男の子を育てています。「パラレルキャリア」という言葉は今回初めて聞きましたが、いろいろな面を持つということの大事さを痛感しています。
- ・子どもが生まれる前は「仕事をする自分」しか自分の中になかったのですが、子どもができた時からは、仕事をする自分、親としての自分、妻としての自分…いろいろな面を持つ自分を意識し、出産前と同じ24時間/日でこなさないといけないようになりました。
- ・パネリストの方々もおっしゃっていましたが、パラレルキャリアはやろうとして実現できるものではなく、いつの間にか出来ているものなのかもしれませんね。
- ・同世代の方々が頑張っている姿を見ることで、とても刺激になりました。
- ・会社と家庭だけの狭い人間関係の中では聞けない考え方や生き方を知れて、良い刺激になりました。ありがとうございました。
- ・色々やりたいと思うことがあっても、どう始めようかな、途中で気が変わらないかな、と迷っている。でも今日話を伺って、とりあえず動いてみようかなと思った。
- ・子育てについて、自分で考えて決めていける子に育てていけたらなと思います。とても難しいけど。
- ・確かに私にとって時間はとても大切です。使い方を改めて考えていきたいと思います。無意味な時間を強要されるのはツライので、自分もそうしないようにしないとなと思いました。ありがとうございました。
- ・受け身でも出来る事が参考になりました。
- ・まだまだパラレルキャリアを認めてくれる企業が少ないので、実践したくても出来ない現状がある。
- ・その悩みを後押しするようなテーマを取り上げてほしい。マインド、企業へのアプローチなど。
- ・杉並チャリティーウォークの街歩きは、防災(地域を歩く、顔見知りが増える)の点からもすごくいいと思いました。
- ・パネラーの皆さんが優秀すぎて聞いているだけで自分とは違う人(雲の上の人)と感じてしまったので、もう少し一般人でも出来そうと思える、ハードルの低いパネラーさんもいてほしいと思いました。
- ・パネリストの方は興味深い内容の話をお持ちなのですから、話し方も勉強するともっと良くなると感じました。
- ・素晴らしい内容だった。高齢者のためパラレルキャリアの考え方を、講師・パネラー生き生きしてパワーを頂いた。若い人たち頑張れ！という気持ちになった。素晴らしかった。
- ・他人と違うこと、自分で決めることは、今まで十分やってきているつもりだが、最近エネルギー不足を感じている。最近受けた講座の中で、今日の講座は特に脳にドーンときた感じがする。良かったで

す。

- ・パラレルキャリアをされているパネリストさんは皆さん魅力的でした。様々な活動が素敵な人、考える仕事に繋がることだと思いました。
- ・十分楽しめました。講師・パネリストも豪華です。大満足です。どうもありがとうございました。
- ・とても行動的なパネリストの話聞くことができ、刺激的でした。とても今後の生き方、考え方の参考になりました。
- ・本日は若い方がとても多く参加していただき、とてもいいテーマだったと思います。
- ・企業が社員の賃金を生活できる程度支給できるような体制が必要と思います。ボランティアは本来の生活基盤が安定しないとなかなか力を入れて取り組めないと思います。
- ・パラレルキャリアという曖昧な言葉が一人歩きしているように思います。
- ・良かったです。自由な発想がいろいろなことを生み出すことを改めて知りました。
- ・三谷さんはじめ4人の皆さんのリアルな仕事や(パラレルキャリアになっていった)流れやきっかけのお話を聞けてとても勇気が出ました。
- ・「パラレルキャリアになんとかしなくては」と皆さん思っていたわけではなく、動いて考えて楽しいやってみたいことに少しずつ携わっていたら、そうなったということを改めて知って、私もあせらず悩まずやっていこうと思えてとても良かったです。
- ・子どもたちにも大人になって社会に出ることって、面白くてワクワクだよというのを自分の人生を楽しむ母の姿を見せていきたいなと思っています。
- ・今後取り上げてほしいテーマ: 女性の心と体とワークライフバランスについて(仕事に追われて心身疲れていく母たち(友人)が多いのでそういう女性のための講座。
- ・時間の使い方(捨てるものを捨てる)をもう一度考えてみようと思った。(自己啓発できてよかった)

### 3. 反省点、改善点

申込	◆QRコードの募集方法であったが、講座の対象もメールができる人達であったためメールフォームでの参加申し込みは比較的多かった。
設営	◆ステージのための平台が重い。段ボールでつくる平台を検討するか、準備を他課職員にも応援してもらえると良い。
日程	◆今回は三谷先生の時間が合わなかったが、午前中準備・リハーサル、午後本番のほうがいい。
周知	◆中学校への配布は良かった。市内大学には一部の学校には周知を依頼したが、学生の参加が少ない。市内の各大学に周知し、テーマによっては大学内の会場を使用することを検討しても良い。
パネルディスカッション	◆パネリストの人数は良かった。登壇者の肩書は正確に記載する。
質問票	◆3人で1つの質問票は良かった。質問票に対して全て回答できない状況であったため、一言、書いて頂いた方への配慮があると良かった。
質疑応答	◆講演終了後、各登壇者に対する質問の列ができた。シンポジウムの時間内に質疑応答で共有できると良かった。
会場	◆マイクの音が最後列まで聞こえづらかった。 ◆手話希望者の席は、通訳者の見やすい席に余裕をもって配置する。又は、申し込みメールフォームの中で手話通訳希望を把握する。
アンケート	◆性別欄、「その他」を別の表現にする。(例: 答えない、①②以外、どちらでもない等)
全体を通して	◆パラレルキャリアの推進により、労働時間の減少に伴う収入減少という課題がある。社会の変化に伴いパラレルキャリアの取り組み方も変化していくものと考えられる。





## ◇男女共同参画週間とは◇

国は、男女が互いにその人権を尊重しつつ、喜びも責任も分かち合い、性別にかかわらず、その個性と責任を発揮することができる「男女共同参画社会」を実現するため、平成11年6月23日に「男女共同参画社会基本法」を公布・施行しました。また、男女共同参画社会に向けた様々な取り組みが行われる気運の醸成を図るため、毎年6月23日から29日の1週間を「男女共同参画週間」と定めています。

習志野市でも「男女共同参画週間事業」として、このシンポジウムに取り組んでいます。

### <平成29年度 習志野市男女共同参画週間事業 運営委員>

- 【委員長】 土肥 洋子 (ハミングフォーラム習志野)
- 【副委員長】 梅澤 明子 (新日本婦人の会 習志野支部)
- 【運営委員】 工藤 嘉矩 (習志野市消費生活研究会)
- 立本 典子 (習志野市消費生活研究会)
- 前田 陽子 (ハミングフォーラム習志野)
- 尾原 陽子 (習志野女性史聞き書きの会・史の会)
- 佐藤 佐知子 (クローバーならしの)
- 榎本 和子 (習志野市芸術文化協会)
- 伊藤 邦子 (ちば菜の花会)
- 川上 育洋 (特定非営利活動法人 習志野文化協会)
- 古賀 陽子 (Donna Popolo)
- 齊藤 真理 (習志野まちづくり研究会)